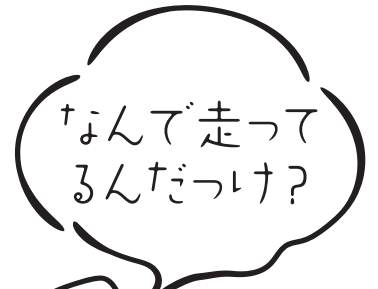




哲学する本棚



← 今回のテーマです



新型コロナウイルス感染症の拡大が始まって、この病気は世界中の人々の関心事になり続けている。でもよく考えてみたら、コロナ以前から、健康は人々の関心事だったような気がする。健康はどうして私たちの関心をかきたてるのだろうか？健康について考える本を50冊選びました。哲学館ホワイエに期間限定の読書空間が出現します。本を手にとって、読んで、考えてみてください。

病気と健康を  
哲学する

頭の中はコロナで  
いっぱい

それは  
感染しますか？

不健康で  
なにが悪い！

健康的なからだ？

幾多郎と病

**[本の展示会]**  
**2023年 1月21日(土) — 3月12日(日)**  
**会場：哲学館 B1F ホワイエ <入場無料>**

※新型コロナウイルス感染症対策のため、会場ではマスクの着用、手指の消毒、検温にご協力をお願いいたします。

■哲学カフェ ○定員各10名(要申込・先着順/参加費無料)  
進行：中嶋優太(石川県立看護大学講師、西田哲学館研究員)

①哲学館 B1F ホワイエで開催 ..... 申込は哲学館まで  
2月19日(日) 13:30-15:30 「わたし、病んでいます。」

②オンラインで開催 ..... 申込はこちらから▶  
3月3日(金) 19:00-21:00 「ふだん健康って気にしてる?」

※哲学カフェは、集まった者同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。



石川県  
**西田幾多郎記念哲学館**  
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail [nishida-museum@city.kahoku.lg.jp](mailto:nishida-museum@city.kahoku.lg.jp)

■facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。



開館時間 ■9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 ■月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日~1月3日)、メンテナンス期間

今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては変更となる場合があります。ホームページをご確認ください。

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC]—国道159号線(約20分)  
のと里山海道 [白尾IC]—(約5分)

【JR利用】金沢駅—IRいしかわ鉄道線・七尾線(約25分)—宇野気駅—  
—徒歩(約20分)—哲学館





# 「健康？」 展示書籍のご紹介



## 1 病気と健康を哲学する

頭だけでものを考えているように見える哲学者にだって体があ  
るし、病気にもなる。

昔も、今も哲学者たちは健康や病気について考えてきた。

### 『急に具合が悪くなる』

宮野真生子・磯野真穂／著 晶文社

急に重い病気になった哲学研究者・宮野真生子が病の中で考え抜く。彼女が研究していた哲学者、九鬼周造のキーワードは「偶然」である。健康でもあり得た「にもかかわらず」たまたまがんになった。リスクと効果、様々な確率が飛び交う現代医療の現場で彼女はなにを考えたのか。



## 2 頭の中はコロナでいっぱい

この3年間、新型コロナウイルスをめぐって人々は考え続けた。感染拡大が始まった時、最初の波の中、あるいは、多くの波を潜り抜ける中で何を考えたのか？

### 『くる日もくる日もコロナのマンガ』

しりあがり寿／著 KADOKAWA

2020年の新聞掲載四コマ漫画はコロナの話題ばかり。マスク、テレワーク、自粛警察、専門家、Go To なんちゃら、密……。当時は物珍しかったニュースも、いまでは忘れられ、あるいはすっかり日常になっている。コロナのことばかり考えた一年を振り返る。



## 3 それは感染しますか？

ペスト、結核……。新型コロナ以前から、人類は感染症に悩まされてきた。それは目に見えず、知らないうちに、人から人へうつって、流行する。

### 『ペスト』

カミュ／著・三野博司／訳 岩波書店

194\*年、アルジェリアのオランという町にペストが発生し、町が封鎖される。この小説は疫病と隔離という不条理のなかで人間はどう行動すべきなのかを問うたが、新型コロナウィルスによって、そこで描かれたことが世界中で現実となり、日常になった。



## 4 不健康でなにが悪い！

不健康であることに後ろめたさを感じるほどまでに、私たちは健康を追い求めている。

私たちをかきたてる「健康」とはなんだろうか？

### 『健康という病』

五木寛之／著 幻冬舎

「私の場合、目を覚ますとまず頭をよぎるのは、はたして昨夜、十分な睡眠がとれただろうか、という不安だ」自分は健康な睡眠がとれているのだろうか。健康情報の氾濫の中で、そんなふうに思い悩むところ、この国の人々がかかっている病なのではないだろうか。



## 5 健康的なからだ？

健康なからだを求めて食事を控え、ダイエットをする人がいる。理想的な肉体を求めてドーピングに手を出すアスリートもいる。

「理想的なからだ」は健康なからだなのだろうか？

### 『ぜんぶ体形のせいにするのをやめてみた。』

竹井夢子／著 大和書房

友達関係が上手くいかないのも、成績が伸びないのも、ショッピングに行っても似合う服がないのも、ぜんぶぜんぶ体形のせい。フォロワー 12 万人を超えるダイエット系インフルエンサーがダイエットに取り憑かれて、そこから抜け出すまでの記録。



## 6 幾多郎と病

幾多郎は 75 歳まで生きた。当時としては長生きだったけれども、常に健康だったわけではない。スポーツのし過ぎで肋膜炎になり、読書のし過ぎで眼鏡をかけるようになる。健康のために禁煙を試みてもいる。

### 『寸心日記』

西田幾多郎／著 燈影舎

「午後学校にゆきテニスをなす帰宅後歯痛はげし」四高教授時代の幾多郎は、歯痛に悩まされていた…。幾多郎の日常を垣間見ることができる日記。それにしても幾多郎さん、「ナップ（昼寝）」が多くないですか!?



## 図書室の紹介

哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をしたい方のための本まで、さまざまな哲学の本が 9,000 冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください。

